

ふるさとの文化財探訪

アナログの音を聞く

レコードの魅力

文化財調査員 内 恵 克 彦

皆さん、音楽は何が好きで、どのような音に聞いていますか。

私は中学生のころ地域（玖珠町）で

われていた「ナトコ」（各地区の公民館などで行われていた映写会）で、初めて見た天然色の洋画映画「リオ・ブラボー」（米、ジョン・ウェイン主演）の映画で、天然色の美しさ、そしてバック音楽のすばらしさ、被写界深度の深さに、それまで見ていた日本映画にない魅力に魅せられてしまい、以後映画は洋画、音楽は映画音楽にはまってしまいました。

その結果大人になってから、これから洋画のビデオテープや音楽のCDを探しまわり買い求めてきました。

その途中でレコードを見つけて聞かせてもらったら、その音の美しさ、やさしさ、そして低音の響きのすばらしさにほれ込み、以来これを集めるのに凝り固まってしまいました。そしてあちらこちらで、レコードを探し回り買い求めてきましたが、今ではこれも昭和の文化財ではないかと思っています。

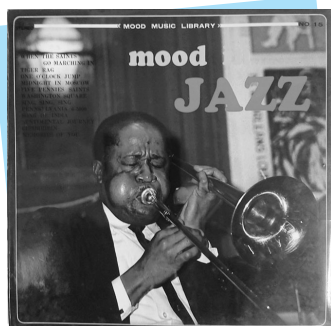
現在音楽と言えばCDか、スマー

トフォン等のいわゆるデジタル化された音を聞くことが多いのですが、一度はアナログのレコードの音を聞いてみてください。その音の美しさ、すばらしさに驚くのではないのでしょうか。

ところで最近新聞紙上において、大分市で「懐かしいレコード展覧会」や「アナログに価値を見つける」として、レコードの人気回復を見て、レコード店も出来たようです。

私もレコード（ドーナツ盤・LP・SP）を家で時々聞いて楽しんでいますが、先日野上の国道の道端に数枚のレコードが捨てられているのを見て、寂しく悲しく感じたことを思い出します。

私が集めてまわったのは遊び半分ではありましたが、今では希少価値も高い昭和の文化遺産の一つとして残しておきたいと考えています。



幸せになろうね



No.303

2021年度 第2回なるほど“ザ”人権講座 (今年は九重町教育委員会による主催)

第1回の講座以来、中断していましたが、県内の感染状況が落ち着いたことにより10月より再開いたしました。

第2回の講座では「部落差別の現実を知る」と題して、部落解放同盟九重支部 支部長の松山マツ子さんを講師に招きました。講座終了後に、本日感じたことについてアンケートを書いていただき、以下のような記述がありました。(一部抜粋)

- ・生まれた地区だけで差別があるということを改めて感じました。最初は知らずに育てた松山さんの親の気持ちもわかる気がしました。話を聞く中で、きちんと自分の

子どもに差別のことを話し学んだことがすごいと思いました。親も子どももこれからもちんと学んでいかなければいけないんだなと実感しました。

- ・子どもさんが小さい時から部落問題についてきちんと学習させていたので、子どもさんは勇気のある行動（PTAで部落宣言をする）が出来たのだと思います。母親としてどんな思いでその姿を見ていたかと思うと胸が絞めつけられます。
- ・初めて部落出身の方のお話を本人の体験を通して聞く事が出来ました。学生の頃に部落差別の勉強はありましたが、今日のようにリアルに聞く事が無かったのが本当にショックでした。まだ今も差別は無くならない事、こんなにも運動しているのになぜ無くならないのか・・・部落差別の歴史から学ぶべきではないのでしょうか。いつから始まり、差別され始めた経緯を知る事が必要だと思う。
- ・人権を勉強することで人を想う心を養える。勉強しなければ差別とは気づかない。
- ・「正しく伝えていかなければならない」という言葉をたくさんの方に共有していきたいと思いました。

紙面の都合上、詳細について掲載することができませんが、ご質問等がございましたら、社会教育課（☎76-3823）までお問い合わせ下さい。

社会教育課